

海外安全対策情報（2023 年 7 月～9 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

2023 年上半期の全国統計によれば、殺人事件は 3 %減少しているが、強盗・窃盗事件は 23%増加し、誘拐事件は 164%も増加している。都市部での強盗事件は、日中の交通量が多い場所・時間帯であっても発生している。また、みかじめ料の要求のような恐喝事件、偽の自動車売買情報や求人広告でおびき出し、その家族に金銭を要求する事件も非常に増加している。さらに、SNS を通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る、道路に「まきびし」をまいてわざと運転中の車両のタイヤをパンクさせ高額な修理業者を紹介する、いわゆる「ぼったくり」行為等、様々な手口の犯罪もこれまで同様発生している。

このように身近な場所での犯罪が増加しているため、日頃から犯罪被害に遭わないため、十分な警戒が必要である。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

（2）邦人犯罪被害事案

- ・ 7 月末、ボゴタ市内を在留邦人が車で走行中、まきびし様のものでタイヤをパンクさせられた。親切を装い近づいてきた男が、パンク修理工場を紹介しようとしてきたが、いわゆる「ぼったくり」であると見抜き、自身の知る修理工場で修理。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2023 年上半期のテロ行為等は前年対比 64%減少したが、これは、前年の数値が極端に多かった（武装ストライキ等により極端にテロ行為等が多かった）ため減少しているかのように見えるものであり、従来どおり警戒する必要がある。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。また、最近、恐喝事件に絡み、金銭の要求に応じない被害者を脅すため爆発物を投てきする等の行為も見られる。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では 2017 年 6 月、ショッ

ピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月、市内の警察学校内で学生22名が死亡するE L Nによる自動車爆弾が発生しているほか、上述の2022年3月26日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（C A I）の爆弾テロでは、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2023年

- ・ 7月5日 サンタンデル県ブカラマンガ市北部で、警察署付近に仕掛けられた爆弾が爆発し、警察官6名負傷。
- ・ 7月19日 バジェ・デル・カウカ県ハムンディ市で、裁判所前を通過したバイクの被疑者が爆発物を投てき、付近にいた警察官2名を含む7名が負傷。
- ・ 7月21日 アラウカ県タメ市で、検問所で車爆弾が爆発し、付近にいた市民2名が死亡、兵士6名を含む18名が負傷。
- ・ 8月1日 メタ県プエルト・リコ市のスポーツセンターで不審物が発見され、警察による調査が始まろうとしたときに爆発、付近にいた市民6名が負傷。
- ・ 8月24日 カウカ県サンタンデル・デ・キリチャオ市で、軍基地にシリンダー爆弾が投てきされ、兵士4名が負傷。
- ・ 9月14日 カウカ県ブエノス・アイレス市で、F A R Cが警察署に爆弾を投てきし、警察官2名が負傷。
- ・ 9月20日 カウカ県ブエノス・アイレス市で、警察署への爆破テロが発生、警察官3名が死亡、5名が負傷。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

2023年10月末の地方選挙候補者に対する脅迫（本人への殺害予告や家族への加害予告など）が急増しており、実際に家族が殺害されたケースも発生している。また、みかじめ料目的とみられる脅迫、恐喝事件が急増している。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、知らない者からのコンタクトには慎重に対応することや、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。

都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。